



安養 ～弘願院だより～

撮影場所：弘願院本堂

ご挨拶

梅雨の候、弘願院檀信徒の皆さまにおかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より弘願院の寺門興隆のため種々ご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

元号も「令和」に変わり早くもひと月が経とうとしています。ふと振り返りますと、つい先日春の花々に心を通わせていたかと思えば、間もなく梅雨の時期。梅雨が過ぎますとあっという間に金沢ではお盆を迎え、季節は夏になってゆく。年々月日が経つのを早く感じます。季節ひとつを挙げてこの世は移り変わるものであると実感いたします。

「日日是好日」という言葉があります。

この言葉は、禅の言葉で「その日その日が自分にとって最高に好い日である」という意味です。

詩人の相田みつをさんも「日日是好日」という詩を残されています。

ふっても てっても 日日是好日
泣いても わらっても きょうが一番いい日
私の一生の中の 大事な一日だから

私たちは自分の都合で今日は好い日・悪い日だと決めつけていませんか。相田みつおさんは、自分にとって良いことも都合の悪いことも、あるがままに受け止めていく、つまり、貴重な体験、貴重な反省の機会として受け止めていく、それが「日日是好日」の生き方だと仰っています。

私自身を振り返ってみますと、何か災難が起きると「なんで私だけが、こんな目に遭うんだ」と、腹を立てたり愚痴をこぼしたり、挙句の果ては「こうなったのはそもそも…」と周りのせいにしてしまう、いけないいけないとわかっていても抑えられない恥ずかしい私であります。

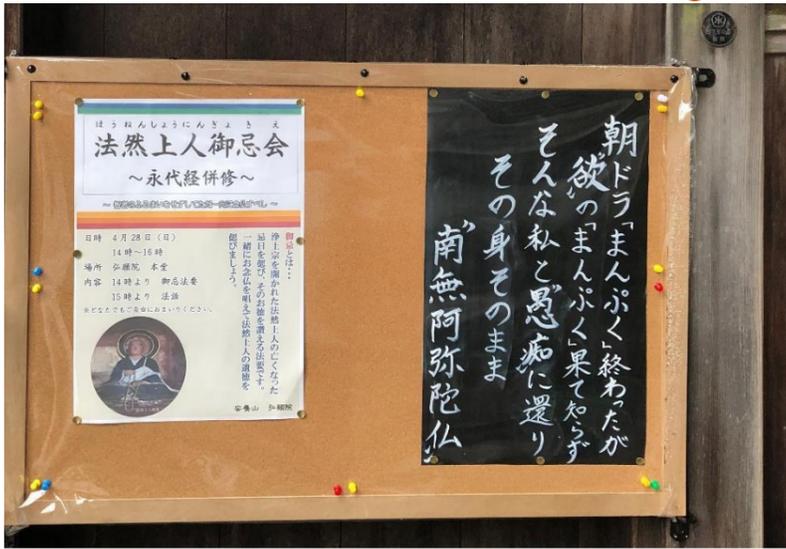
ですが、自分勝手に愚痴をこぼしたり、腹をたててしまったり、こんな愚かな姿を見抜かれて「そんなあなたこそ救わずにはおれない」と仰ってくださるのが阿弥陀様なのです。

辛い事や悩みも尽きない人生ではありますが、こんな私のこともずっと見守ってくださる阿弥陀さまに感謝し、日々の生活の中で「南無阿弥陀仏」のお念仏に出逢えたご縁を有り難く頂戴し、二度とない今日というその日を大切にしていまいりましょう。弘願院 森岡 達圭

山門前のことば

2019年4月10日ごろ

2019年4月20日ごろ



朝ドラ「まんぷく」終わったが
欲の「まんぷく」果て知らず
そんな私と愚痴に還り
その身そのまま 南無阿弥陀仏

花一輪が開くにも 天地いっぱい総がかり
私が今を生きるにも 天地いっぱい総がかり

私の母校でもあり、前の職場でもある京都の佛教大学。その佛教大学の学長先生である田中典彦先生が様々な場面で学生さんや教職員にお伝えしていた言葉を少し参考にさせていただきました。

お花は自分の力だけで綺麗な花を咲かせるのではなく、水分やお日様の光や大地の中で様々な要因をいただいて、ようやく綺麗な花を咲かせます。

人生を主人公として歩んでいる我々ですが、目に見えるものだけではなく、目に見えない様々な要因やご縁もあっての今の私達ではないでしょうか。

「生きている」という感覚よりも

「生かされている」と受け止めると、自然と周りに優しくなれるのではないのでしょうか。

そうやって弘願院も私自身も、人様が生きていくための何かの善い縁になれたならば嬉しい限りです。

花が精一杯咲き誇り、やがて散っていく様子を見ながら、今ある命の尊さや儚さを今一度「有り難い」ものだと見つめなおす、この言葉がそう考えるきっかけになれば幸いです。

「あの人この人が羨ましい」「もっと〇〇が欲しい」
「あの子のせいで・・・」「こんな世の中だから・・・」
「なんで思い通りにいかないんだ」

自分の心が満たされた瞬間に、すぐ次の欲望が顔を出す。

そんな我々ではないでしょうか。

いけないいけない。気を付けよう。そんな悪い心は今すぐ捨ててしまおう。わかっちゃいるけどやめられない私。

知識として理解していても、身も心も継続できない私。

智慧もない、きまりも守れない。

心の中も池の水のように濁ったり澄んだり定まらない。

自分自身が如何に未熟であるかを自覚し、そんな私でさえも阿弥陀仏という仏様はずっと見守ってくれているのだと信じ、その未熟な・不完全なお姿のまま

「助け給え阿弥陀様」「どうかお願いします阿弥陀様」

という思いでお念仏に励みましょう。

弘願院 法然上人御忌法要を厳修しました

4月28日（日）に平成最後となる「法然上人御忌法要」を厳修しました。

法然上人がお亡くなりになったのが建暦二年（1212年）。今年は808回忌の法要でした。

「お念仏をとるものは、だれもが極楽浄土に往生できる」

浄土宗を開き、お念仏の教えを説き広められた法然上人のご遺徳を偲ぶ法要を「御忌」と言います。（法要や法話の様子の写真は失念しておりましたので、準備の写真でご容赦ください…）

法要の中で法然上人や施主各家のご先祖様のご回向をし、お参りいただいた方と共にお念仏をおとなえさせていただきました。法要の後は『一枚起請文』の中の「智者のふるまいをせずしてただ一向に念仏すべし」を讃題に取り上げ、浄土宗の教えのお取次ぎをさせていただきました。法話の前と後でお参りの方々のお念仏の声が一段と大きくなったこと、法話をさせていただいた身としては大変有難いものでありました。

また、この度は「回向霊名簿」の書式を若干変更し、ふりがな等の記入のお願いをさせていただきましたが、皆さまご理解ご協力いただき、誠にありがとうございました。



6月29日(土)弘願院 施餓鬼法要について

今回寺報とともに施餓鬼法要のご案内を同封しております。この施餓鬼法要では施主家ごとに「塔婆」を準備いたします。普段あまり目にすることのない塔婆について少し触れてみたいとおもいます。

とうば (そとば) 塔婆 (卒塔婆) とは

塔婆（正式には卒塔婆）は追善供養のために梵字、名号、種字、戒名、俗名などを書き記し建てる白木の板のことです。インドではお釈迦さまの入滅後、遺骨を納めた仏塔（ストゥーパ）が各地に建立され、礼拝の対象となりました。お釈迦さまの遺骨の埋葬場所に建てられた仏塔（ストゥーパ）の音を漢字で表記したものが「卒塔婆」です。

仏塔が中国や日本に伝わると、五重塔などの立派な仏教建築などに進化しました。



2010年 中国 西安 大慈恩寺(大雁塔)
玄奘三蔵にもゆかりのあるお寺で世界遺産にもなっています。



中国や日本に伝わり
姿形や意味合いが
変化した。

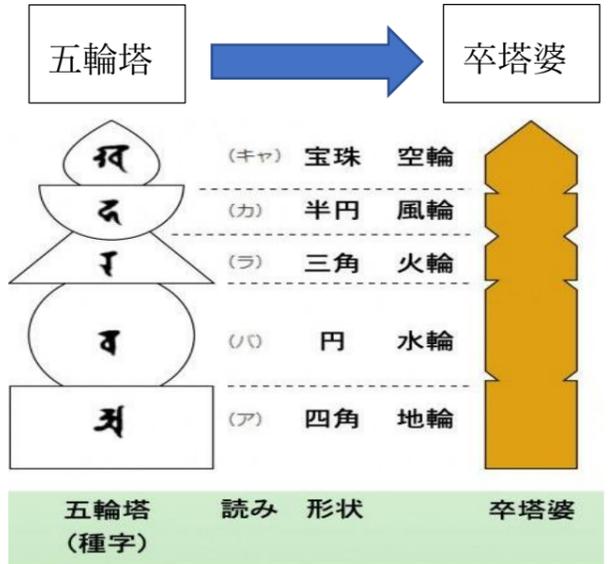


2012年インド サールナートにて
お釈迦さまが初めて説法された場所にも、
ストゥーパや遺跡がありました。

卒塔婆はその塔を簡略化した五輪塔（地・水・火・風・空の五大をそれぞれ四角形・円形・三角形・円形・宝珠形に石などでかたどり、順に積み上げた塔。平安中期ごろ密教で創始され、のちには供養塔・墓標などとされたもの）を模して上部が塔状になったものです。上から空（宝珠の形）・風（半円の形）・火（三角の形）・水（円の形）・地（四角の形）の五大（あらゆる世界の万物を作り出している地大・水大・火大・風大・空大の五つの構成要素。）を表します。

卒塔婆には延命・滅罪・消除厄難・仏天擁護などの功德があることが経典に説かれ、それに基づき梵字や経文等を浄書する板状のものが作られました。多くの地方では年回法要や施餓鬼会などの際に卒塔婆を建ててご先祖さまを供養します。こうした由来から、卒塔婆には、塔や墓石を建てるのと同じ利益があるとお経には説かれています。

卒塔婆を建てることで建立した人（施主）の善根功德となり、亡き人の追善供養のために、その功德をふり向けることにもなるのです。



今回の施餓鬼法要はこの塔婆を施主家ごとに準備する関係で「回向霊名簿」は事前に郵送またはFAXにてお寺にいただけますと幸いです。どうかご協力お願いします。（弘願院のその他の法要では「彼岸法要」でも同様に塔婆を準備します。次回の弘願院の彼岸法要は2020年の秋のお彼岸が当番に当たっております。）

また、普段の法事や月参り、その他の年中法要（御忌・十夜）でも家の仏壇に収まるサイズの塔婆をご用意することは可能です。ご自身の善根功德をご先祖様に回し向ける追善供養をこれを機会に考えられる方は、お寺にご相談ください。



目教えて！わかりにくいお経目

二、「念仏一会(ねんぶついちえ)」

法事や月参り、弘願院の法要で木魚の「ポクポクポクポク」という音や、伏鉦ふせがねという鉦かねの「カーンカーンカーンカーン」という高い音と共に「南無阿弥陀仏」のお念仏をしばらくの間、ひたすらにおとなえする。そういう場面をイメージできますでしょうか。

「南無阿弥陀仏」のお念仏は前号でご説明したとおり、阿弥陀様のお名前を呼んでいます。

「助け給え阿弥陀様」「どうかよろしく願ひします阿弥陀様」という意味でしたね。

今回の「念仏一会ねんぶついちえ」とは、勤行や法要中に鉦・木魚等を用いて遍数を限らず称名念仏することを念仏一会といひます。一会いちえとは、「一連といった意で、或る連続した時間念仏申すことを一会という」(『浄土宗法儀解説』)とあります。我々の宗旨である浄土宗は、以下に記載した信仰や教えにおける三要素がはっきりしています。

信仰の目的 (何を求めるのか) 【所求しよく】 - 極楽浄土に往生すること

信仰の対象 (帰依する対象は何か) 【所歸しよき】 - 阿弥陀仏

信仰の実践 (何をしなければならぬか) 【去行こぎよう】 - 阿弥陀仏の本願の念仏



阿弥陀様は仏となる前のさとりを求めて修業されていた頃のお名前を法蔵菩薩ほうぞうぼさつ (後の阿弥陀仏) といひます。その菩薩様の頃に、一切の人々を救うために四十八種類の誓い (誓願) を立てられました。

その十八番目の誓いを【念仏往生願ねんぶつおうじやうがん】といひます。

あらゆる世界の人々が、真実のころをもつて深く私の誓いを信じ、私の国土 (極楽浄土) へ行き生まれたいと願ひ、少なくとも十遍、(南無阿弥陀仏と) 私の名前を称えたにもかかわらず、往生しないということがあつたらば、私は仏となるわけにはいひかない。

この大切な誓いも含めた四十八種類の誓いが全て成就するために法蔵菩薩 (後の阿弥陀仏) は我々の代わりに永い永い時間修行され、ついに仏となられたのであります。「南無阿弥陀仏」のお念仏には阿弥陀様の修行の一切の功德が詰まっているのです。

法然上人も「南無阿弥陀仏というは別したることには思ふべからず。阿弥陀ほとけ、われを助け給えという言葉と心得て、心には阿弥陀ほとけ助け給えと思ひて、口には南無阿弥陀仏と唱ふべし」と仰つておられます。極楽往生を願ひ、ひたすらにお念仏をとこなえすることで、自ずからお念仏をとこなえ方の心構え (三心) も備わつてくるのであります。

内容がわかつてくると楽しくなつてきませんか? 自身の極楽往生を願ひ、その善根功德をご先祖様にふり向けるために、また心を込めて一緒にお念仏に励みましよう。

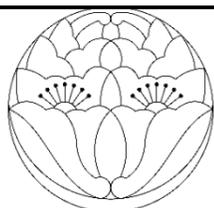


編集後記

6月29日(土)に施餓鬼法要を実施しますので、是非ともお参りください。

また、7月の新盆前には「安養～弘願院だより～」の特別号として、お盆やお墓参りに特化したものを発行予定です

発行者



浄土宗 安養山

弘願院



〒921-8031 石川県金沢市野町1-3-87

Tel : (076) 243-8024 Fax: (076) 243-5165

mail : guganin.jodo@gmail.com

H P : https://www.guganin.net

Instagram : guganin.housenji.jodo

Twitter : @guganin1645

金沢市 弘願院



「安養～弘願院だより～」

第三号

発行年月日 2019年6月1日

発行者 安養山 弘願院

森岡 達圭